

平成 29 年 12 月 25 日

## 全校集会校長講話

誇り高き巻高校の生徒諸君、こんにちは。今年もあとわずかになりました。

私が赴任して9か月ほど経ちましたが、4月の始業式、入学式に始まり、6月の白楊祭体育の部、9月の白楊祭文化の部とロードレース大会、11月の修学旅行など順調に学校行事が行われました。部活動では、どの部も活躍してくれました。男子バレーボール部、女子ソフトテニス部、水泳部のインターハイ出場、文芸部と新聞部の全国高等学校総合文化祭出場、文芸部の俳句甲子園出場は特筆されます。

また、年末年始の女子ホッケー部の全国選抜大会と男子バレーボール部の春高バレー出場は、学校だけでなく地域全体が巻高校を応援してくれるたいへんよい機会となりました。女子ホッケー部の諸君は、昨日の試合で残念ながら初戦突破はできませんでしたが、北信越代表にふさわしい戦いをしてくれました。最後まで諦めず走り続ける選手の姿は感動するものでした。健闘を讃えたいと思います。そして1月4日は男子バレーボール部の出場です。応援に行く人も行けない人も選手諸君を応援しています。ベストコンディションの下、巻高バレーの真価を発揮し全国にその名を轟かせてください。

こうして振り返ると文武両道を掲げる巻高校の力がよく発揮されたと思います。巻高生を誇りに思う私の気持ちは揺らぐことはありません。

さて、3年次生にとってはセンター試験まであとわずかとなりました。「現役生は、ここから成績が伸びる。最後の1日まで伸びる」と言われます。それはなぜでしょうか。私が思うに現役生が伸びる理由は、「最後まで、自分の可能性を信じていることができるから」そして「一緒に頑張っているたくさんの仲間がいるから」だと思います。「心は一つチーム巻」です。日に日に近づく本番を前に不安を感じる人は多いと思います。でもそれは受験生なら皆同じことです。慌てず、焦らず、諦めずに自分の力を信じて頑張り抜けるかどうかです。

2階のラウンジの前に幟が何本も立っています。その一本に「未来を切り拓け」と書かれた登りがあります。「ひらけ」に、「たく」とも読む漢字が使われている意味を考えてください。門構えの開くは、未知の世界への扉を開くという意味が強く未来系だと思います。これに対して幟の拓（ひらく）は一步ずつ耕していくという現在進行形を示しています。さらに自分の運命を切り拓くという意味もあると思います。

「未来を切り拓け」には、強い意志をもって今を大切にしておいて試験当日まで努力を続けることが、よい結果として現れるという皆さんへの激励です。ぜひ自分の手で未来を切り拓いてください。

今一つ、11月に3年後から始める大学入学共通テストの試行調査テストが全国一斉に行われました。例えば数学では従来の問題は公式や問題のパターンを覚えていれば解答できましたが、今回のテストでは文章を読み、文脈の中から必要な情報を取り出す読解力や、複数のグラフや表をもとに解答を導く情報処理力が試される問題が出されました。これからの大

学入試は、ベースとなる知識を身に付け、知識を活用しながら自分で考え、なぜそうなるかといった物事の本筋を理解しないと対応できません。必要となる学習のキーポイントは能動的学習です。

ある大学の教授が6年ぶりに学生対象の授業に出たそうです。戸惑ったのはノートを取らない、取ることができない学生が増えたことだそうです。第1に授業中、学生が教壇に走り寄りスマホをかざしてホワイトボードの写真を撮影して席に戻っていく。第2に講義終了後、学生に取り囲まれ、話が早すぎてついていけない、講義ノートを配布しろと詰問されたそうです。その後試験をしたら、かつては皆解けた概念定義の記述問題がまるでできない。言語的に厳密さを欠き的を射ていない。自分でノートを取ってないから書けるはずがないと思ったそうです。

本来ノートを取るという行為は、能動的に思考しないと成立しないと言っています。耳から入力された音声情報を文字に変換し、選択的にポイントを把握し、かつ全体的な構図を想像しながら書き留める。この行為は高度な能動性を要することです。受動的姿勢では聞いたことを機械的に書き留めることしかできません。皆さんは普段の授業でどのようにノートを取っていますか。これからは人の意見を要約し、自分の考えをまとめ、話し合いながら課題を解決して発表する能力が求められます。授業・学校行事・部活動など様々な場面で自ら意識して能動的学習を行ってください。

最後に今日は今年最後の全校集会です。4月からの学校生活で頑張ったこと、少し足りなかったことを振り返り、新年に向けどんなことを心がけ、実行すべきか自分に問いかけてください。寒さ厳しい季節です。健康に留意し、年明けの1月9日には全員元気で登校できることを願い講話を終わります。